

処置室 から

毎月1,000名ぐらいの方が処置室にいらっしゃるようです。多くの方はゼロゼロでの吸入や鼻洗浄です。採血検査の方は月150名から300名で2月、3月は花粉症の検査が増加しました。レントゲン・心電図の検査は毎月30名ぐらいです。迅速検査はインフルエンザの1,072名、溶連菌検査の222名、アデノウイルス検査の97名です。

咽頭炎、肺炎などで抗生素の点滴をされる方が急増しております。12月から2月は60名を越えるぐらいでしたが3月は124名と倍増しました。この効果があって入院にいたる患者さんは増えませんでした。OCFCでは患者さんの希望により紹介入院や通院での点滴を選択します。

小児喘息フォーラム 報告



3月30日に小児喘息フォーラムの司会を担当しました。平日にもかかわらず120名もの出席がありました。講演はコロラド大学の小児科教授ゲルファン博士でした。講演や司会は英語でおこなわれましたが、同時通訳のサービスもあったようです。

◆なぜ子供の喘息には特別の対応が必要なのか。

子供と成人の喘息の病態から、こどもではダニやハウスダストなどのアレルゲンが多く、呼吸困難は肺の末端(末梢部分)の狭窄が主流であることを説明し、吸入療法よりもロイコトリエン受容体拮抗剤などの経口投与が大切であると説明がありました。また小児期の早い時期の抗原への接し方、治療の方法が成人にいたる喘息の重症度を決定しているようです。この治療はまだ確立していませんが近い将来免疫療法などが候補に上がるでしょう。またアレルギー疾患の発生に関与する衛生仮説(過度の衛生志向がアレルギー疾患を増加させる)の説明を免疫学的に解説しました。将来は遺伝子療法や免疫療法が喘息の発生を食い止めるかもしれません。終了後には多くの質問がありましたが、院長はRSウイルスなど乳児期のウイルス感染症が喘息の発生を促すことから、RS感染中からのロイコトリエン受容体拮抗剤の投与に関してどうか質問しました。やはりアメリカでも早期の投与を開始しているよう近いうちにその結果が報告されることでしょう。

当日はOCFCにも多くの患者さんが来院され、1時間以上お待たせした様でまことに申し訳ありませんでした。しかしこういった研究会に参加して、直接世界の専門家からお話を伺うことは、医師の実力を維持向上させるために必要なことです。ゲルファン先生は私がコロラドに留学していたときの直接の上司です。また研究所のナショナルジオグラフィックセンターはアレルギー研究の世界的中心地であり、IgEを発見した石坂公成博士が研究されていたところです。日本から直接治療に見えていた方もいらっしゃいました。(OCFC院長)



医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども＆内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科 (併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間: 月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00
土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00
(日曜・祝日休診) 駐車場七台あり

予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp



東急多摩川線矢口渡駅前



OCFC NEWS

2006年4月20日号

Vol.26

大川こども&内科クリニック

MRワクチン開始

4月1日からMRワクチンが開始されました。このワクチンは麻疹と風疹の混合ワクチンです。以前、流行性耳下腺炎のワクチンを混ぜたMMRワクチンがありました。副反応が多く中止となりました。今回は問題があった流行性耳下腺炎のワクチンを除外した改良型ワクチンです。もう一つのポイントは諸外国と同じように2回接種となったことです。すなわち生後1歳から2歳のお誕生日の前日までに1回目接種、小学校就学前の1年間で(入学の年の3月31日まで)2回目接種することになります。MRワクチンの1回目をしていない方は公費で2回目を接種することはできません。すなわち就学前の接種は平成22年4月からとなります。麻疹・風疹を単独で受けられた方は希望により自費での接種となります。麻疹・風疹の発生が減少しております。免疫力を再強化する上で、MRワクチンの適応でない方も小学校就学前に2回目の接種をお薦めします。

麻疹・風疹単独ワクチン未接種の方への救済処置

7歳未満の方で、麻疹・風疹ワクチンを接種されていない方には平成19年3月31日までお申し出があれば公費負担で接種できます。地域行政センターまで母子手帳を持参されて新たに予診票の交付を受けてください。

遅れる新型日本脳炎ワクチン

昨年奨励接種から外れた日本脳炎ワクチン、予定では4月より新型ワクチンが発売され、奨励接種が再開される予定でした。しかし新型ワクチンの開発が遅れているため、現在予定がたっておりません。今年郊外でのキャンプや中国、東南アジアへご旅行の予定がある方で日本脳炎ワクチンを希望される方は6月2日までに接種してください。それ以降は接種できない見込みです。

日本の家畜の日本脳炎罹患率は夏季には70%を

超えます。昨年、今年と連続してワクチン接種が行われないと日本脳炎の発症が心配です。日本脳炎は感染してもその発症は1%以下ですが、発症しますと3分の2の方が、亡くなるか重い神経学的後遺症が残ります。また東南アジアでは毎年流行しております。海外旅行に行かれる方、夏にキャンプや田舎でのんびり過ごしたい方は同伴される子どもさんにワクチンの接種が必要になるかもしれません。従来のワクチンは重い神経症状が出現するという理由で奨励接種から外れましたが、その発生頻度は100万人に一人の割合です。実際に罹患する確率よりはるかに少ない数字です。また新型ワクチンが従来のワクチンより優れていることを実証するには1000万人規模の実績がないといえません。新型ワクチンが本当に有効で安全であると証明するには更に時間がかかることでしょう。

小学校3年生まで窓口負担がなくなりました。

大田区在住の方で小学校3年生までの場合は小児科外来受診時の窓口負担がなくなりました。対象の方は医療券を持参してください。なお小学生への補助は各自治体にて対応が異なりますので所在地の自治体に確認してください。

今年の黄金週間中も午前9時から12時まで救急診療いたします。

- ◆5月1日、2日は午前8時30分より夕方6時まで(12時から2時までは昼休みです。)
- ◆6日は午前8時30分より午後3時まで通常の診察を行います。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

インフルエンザ流行報告

今年のインフルエンザは3月まで511名の患者さんを診察しました。B型は2名のみで、509名の方はA型でした。今年のA型はH3N2の香港型とH1N1のソ連型の2種類が流行しましたが、東京は香港型がほとんどでした。2種類が流行ったおかげでA型インフルエンザに2回罹患する幼児もいらっしゃいました。予防接種は流行株と一致し、それほど大きな流行には至らなかったようです。インフルエンザ迅速検査は1,100名ほどに行いました。発症から12時間以上たたないと正確な評価ができないことが徐々に浸透し患者さんも落ち着いて検査を待っていただけたようです。

タミフルの副反応

今年はタミフルの副反応(興奮、幻覚、痙攣、意識の低下)が報じられ、インフルエンザに罹患した全ての方にその使用の確認を致しました。1歳以下の使用は4名に投与しました。1歳以下では文書でインフォームドコンセントをとっております。全体で20名ほどがタミフルの使用を避けましたが特に問題なく回復されております。使用した方では3名ほど興奮状態になったと訴えられた方がいらっしゃいましたが、内服の中止と、解熱により短期間で回復されました。因果関係は不明です。内服された方も解熱後内服を中止され、ほとんどの方が2~3日間で回復されました。昨年のように解熱後再び発熱される方も少なく、今年のインフルエンザは例年よりおとなしい印象でした。肺炎様症状を呈した方は2名いらっしゃいました。1名は高校生の方で喘息様の呼吸となりタミフルと同時にステロイドの投与で翌日には回復されました。88歳の老人の方は間質性肺炎となり、ステロイド療法、酸素吸入を行い、ANAの便で札幌の病院に転送、入院となりました。その後元気に回復されたようです。

ノロからロタへそして再びノロへ、反復する感染性胃腸炎

12月には551名、1月には250名、2月276名、3月288名と感染性胃腸炎は大流行です。2月の後半からノロウイルスからロタウイルスに変わり、便性は一層白っぽくなっています。ロタは4月も流行し、5月からは再びノロウイルスに変わりそうです。昨年1年間に感染性胃腸炎でいらした方は2,493名でした。ノロウイルスも、ロタウイルスも複数種類があり年間4回反復感染された方もいらっしゃいます。これらウイルスは病気が治っても2~3週間便中に排泄されます。

対策として手洗い、うがいの励行です。汚染された衣類、タオル、寝具は熱湯消毒、食器、便座等は塩素系の消毒薬、洗剤で消毒してください

マイコプラズマ肺炎にご注意

マイコプラズマ肺炎は過去十年で最大の流行

3歳以上ではマイコプラズマ肺炎が大流行のようです。確定診断(血清で抗体価の上昇)した症例は昨年1年間で50例ありますが、検査していない方も多く実数はそれの10倍ぐらいでしょうか。今年の特徴は熱もなくて咳がだらだら続く(成人に多いようです)方もいらっしゃいます。OCFCではマクロライド系の抗生素の早期開始に踏み切っております。それにしてもマクロライド系の薬の味は不味いようです。OCFCでは必ず内服指導をおこなっています。お薬の飲ませ方がわからない方はお気軽にお聞きください。

大流行の溶連菌

溶連菌感染症が続いております。昨年の発症は275名でしたが、2月、3月は40~50名の大量発症でした。治療はバイシリンで十分効果的ですが、短期間で再発される方もいらっしゃる、アモキシリンを使用する方が増加しました。治療は簡単ですが、よく考えると腎炎やリュウマチ熱の原因となります。十分な期間の抗生素内服(7日から14日間)とその後の検尿、採血検査をお薦めします。

その他の感染症

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)、水痘は特定の幼稚園で爆発的に流行したようです。流行性耳下腺炎は12月から3月まで68名、水痘は110名でした。伝染性紅斑(リンゴ病)は43名です。伝染性紅斑は発疹が出現する時期には感染力はありません。発疹が出たら、すなわち診断がついた時点で登園は可能となります。流行性角結膜炎、咽頭結膜炎、浸出性咽頭炎はともにアデノウイルスでおこります。元は夏に発症していましたが最近季節性はなくなつたようです。12月から3月まで66名、3月は大ブレイクしています。滲出性咽頭炎では5日間、ジット我慢の高熱です。

うさぎのママ だより

平成17年度(平成17年4月から平成18年3月)の登録者は736名、入室者は1196名でした。1日平均4.9名、稼働率92%、キャンセル率は33%です。ご利用者の年齢は1歳代が一番多く429名、2歳代が334名、3歳代が173名、4歳代が95名、0歳が82名です。5歳以上は83名でした。疾患名は感冒や咽頭炎等の上気道炎が444名、肺炎気管支炎が188名、インフルエンザが100名、水痘は56名、アデノウイルス感染症が66名、流行性耳下腺炎は89名でした。定員が6名になれば現在の需要ではほぼ満足していただける水準となります。OCFCでは大田区へ定員増を要求しておりますが、ご利用の方からもご支援ください。

病診連携

12月から3月まで入院紹介は14名、外来紹介は62名、検査依頼は7名でした。入院は東邦大学小児科に9名、乳児の細気管支炎、咽頭炎、腸重積などです。川崎病が1名、6歳男児の髄膜炎も紹介しております。内科には21歳の胸痛の方は自然気胸にて紹介しております。昭和大学小児科には肺炎と腸重積で、荏原病院小児科には細気管支炎を紹介しました。その他大森日赤には感染性胃腸炎、日赤医療センター小児科には肺炎を紹介しております。成人の咽頭炎、喉頭蓋炎で昭和大学と荏原病院内科に紹介しております。検査依頼は熱性痙攣など痙攣性疾患での脳波検査を東京医科歯科大学小児科荒木先生に、頭痛等での頭部MRI検査を東邦大学放射線科に依頼しました。結果はOCFCにてご説明しております。外来紹介は外科的な疾患が多く東京医科歯科大学小児外科に頸部リンパ節腫大やソケイヘルニア、東邦大学小児外科には肛門周囲膿瘍他、荏原病院や昭和大学形成外科に皮膚疾患で紹介しております。中耳炎等耳鼻科疾患は最寄りの耳鼻咽喉科に30名ぐらいの紹介となりました。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

1月は東京小児科医会広報誌の編集会議、東邦大学大森病院での研修管理者会議に出席。2月では10年続いた小児血小板減少症研究会の最終世話人会に出席して、後任を大学の後輩に託しました。3月には東京城南喘息アレルギー研究会に世話人として出席。30日には小児喘息フォーラムの司会をしています。一般向けにぴあ 子供と遊ぼう春&G.W. お出かけサポート春 体のトラブルとぴあ こどもとおでかけ 365日おでかけラブルサポートBOOK2006 を監修しました。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(院長・三宅)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長・佐々木)
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(富沢)
木	内科・循環器(弓場)	1・3・5水 じっくり外来(院長)	
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
土	小児科・内科(院長・荒木)	乳健・予接(1時~2時)	小児科(荒木:2時~3時)
	神経外来(荒木)	じっくり外来(院長:不定期)	
	発達心理(藤本)	栄養相談(関)(乳幼児、生活習慣病)	
	2・4土 アレルギー(大柴)		
日曜・祝日	9時~12時	休日診療・予接(院長・荒木・佐々木)	

乳健:乳児健診、予接:予防接種、ア:アレルギー疾患 慢:慢性疾患 栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
●毎週日曜午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	その他	29#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#	MR	31#
隔離感染症	14#	取消	30#	水痘	26#		
予防接種	15#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#		

※予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。
サービスコードの確認を、よろしければ0#誤っていれば1#で行って下さい。

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)

(3台)オゾン空気清浄・防臭装置(2台)電解水発生装置、消毒用専用スプレイザー

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、

電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、
パルスオキシメーター2001、聴力検査機器、心電図モニター、チップノメトリー、アトムネオ
テーブル

院内設備・機器